

和歌蘭生に答ふ

四倉本町自治研究會會員

(上) 山野邊政太郎

過日本紙に和歌蘭生なる人が四倉町長問題につき纏りの無き議論を羅列されし中に本町自治研究會が町長留任の決議を町會の研究に進言せること云々の記事あり吾が研究會としてもドーゼ匿名でもあり且つは自治研究會を時事研究會と間違ふ様な暇人の対言もあり敢て反駁の價値も無く得たので會員個人として愚見を披瀝することにした。吾が自治研究會は昨年八月會が成立した、目的は御互ひ長短相補ふ意にて町政を研究し吾が住む郷土をより良くせんとする意見に外ならぬ、他人のアラ拾ふ様な呑氣な考へからでは無い。

吾が研究會が過日町會に提出せる進言書につき申述べやう私は其の席上合意しく不在であつた、今私の議論は會を代表するに非ざるも、恐らくは和歌蘭生の論旨は杉原前町長も駄目、菅波千之助氏は問題なく且つ私は其の責に任するで無い、新妻盛氏は夫程町民として希望して居るかドーカと云ふ抽象的議論にて現在町長問題に當面してゐる矢先自分で無い、新妻盛氏は夫程町民として甚だ不眞面目な話である、私共は現在に立脚して將來を眞面目に考へてやつた若し本會が杉原町長再選を希望するのみである。

前記は水いが杉原町長再選についての理由を簡単に述べ

ることにする。
先ず候補者を杉原、菅波、新妻の三氏とする。吾々は菅波氏が町長たる能力の可否の議論は避けたい、假に菅波氏を町長とする時町の事務は勿論の力が杉原氏以上に出でるか杉原町長の反對論者の最も主眼とする積極的行動も菅波氏修養の足らぬ現町議(恐らく次期とも云ひたい)に於て菅波氏獨り氣を揉むとも何の役にも立たぬ。(つづく)

印刷物は 加納活版所

生徒募集集

本科第一部

高等二年卒業若クハ之レト同等以上ノ卒業生ハ特ニ第二學年ニ編入ス

上ノ學力ヲルモノノ

本科第二部

高等小學校卒業若クハ之レト同等以上ノ卒業生ハ特ニ第一學年ニ編入ス

上ノ學力ヲルモノノ

技藝專攻科

高等女學校卒業若クハ之レト同等以上ノ卒業生シタルモノノ但シ高等小學校卒業シ相當ニ裁縫ノ素養アル者ハ詮

術ノ上ニ編入ス

上ノ學力ヲルモノノ

技藝高等科

高等女學校卒業若クハ之レト同等以上ノ卒業生シタルモノノ但シ高等小學校卒業シ相當ニ裁縫ノ素養アル者ハ詮

術ノ上ニ編入ス

上ノ學力ヲルモノノ

◎四月四日午前十時入學式舉行

◎學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト

本校寄宿舎ハ共同自炊ニ付極メテ低廉食費一日貳拾五六錢

上ノ學力ヲルモノノ

上ノ學力ヲルモノノ